指定管理者による管理運営の実施状況報告

１　施　　設　　名：　福岡県青少年科学館

２　指 定 管 理 者 名：　福岡県青少年科学館運営グループ

３　指　定　期　間：　令和４年４月１日～令和９年３月３１日

４　施 設 設 置 目 的：　青少年の科学に関する知識の普及啓発を図り、もって創造性豊かな青少年の育成に寄与する。

５　管理運営についての点検結果（令和７年４月１日～令和８年３月３１日）

（１）点　検　方　法：　事業報告書、現地確認・ヒアリング等をもとに、指定管理者による管理運営の実施状況の点検を行った。

（２）点　検　結　果：　別添のとおり

1 管理運営状況総括表

大項目	事業計画（取り組みや改善の内容等）	管理運営の概要
① 公共性（公益性）の確保	・国や福岡県の方針を踏まえた事業展開を行う。	・学習指導要領に準拠した展示やプラネタリウム学習番組の投映を行った。 ・国の科学技術・イノベーション基本計画及び福岡県の教育施策を踏まえたプログラム構築を行い、科学講演会やサイエンスショー、科学を身近に感じることのできる「おもしろサイエンスフェア」等を実施した。
	・利用案内の配布による学校利用の促進や、科学体験による効用の周知を行い、学校教育との連携を図る。	・「科学館ニュース」25万部を年4回、特別展・企画展のポスター・チラシを各1回、学校に配布し、利用促進を図るとともに、学校等と連携し、県内の小・中学生の理科や科学に関する夏休みの制作作品を展示、表彰する作品展「福岡県小・中学生科学研究作品展」を実施した。
	・県民の学習ニーズに応じた学習機会の提供に努め、地域との連携を図る。	・「天体観測室公開」（22回）、「市民天体観望会」（13回）、「星空教室」（8回）、「科学講演会」（1回）など、子どもから大人まで参加できる各種教室を実施した。また、「サイエンス教室」（6回）、「ものづくり工房」（12回）など、内容を充実させ、計画的に行った。 ・県立社会教育施設や地元久留米市等と連携を図り、イベントや科学・天文事業への講師派遣等（ネットワーク推進事業）（18回）を行った。
	・高齢者・障がいのある人に対する配慮を行う。	・必要に応じ、身体障がい者専用とされていない駐車区画を身体障がい者用の区画に変更した。
② 施設利用及びサービス向上	ア 利用の促進 ・青少年に科学に対する興味・関心を抱かせるため、楽しみながら科学を体験できる事業展開を行う。	・「サイエンス教室」（6回）、「ものづくり工房」（12回）、「科学工作教室」（110回）、「おもしろサイエンスフェア」（3日間）等を実施した。 ・特別展（2回）、作品展（1回）、企画展（1回）、プラネタリウム学習番組（12本）、「市民天体観望会」（13回）、「星空教室」（8回）、「星と音楽の夕べ」（2回）、「プラネタリウムショー」（1回）を実施した。
	・積極的な情報の発信に努め、行事や科学情報を地域に発信する。	・ホームページを週2回更新し、利用案内や展示物紹介だけではなく、科学・天文の情報提供をした。
	・ポスター、チラシなど様々な手段により、広報・PR活動を行う。	・学校、市町村、公共交通機関等に対してチラシ等を配付するとともに、企画展や特別展ではマスコミに取材要請を行い、テレビやラジオ番組に出演するなど、積極的な広報活動を行った。
	イ サービス・利便性の維持向上 ・夏季休業期間など繁忙期における常時開館を行い、サービス向上に努める。	・夏季休業期間は休まず毎日開館し、サービス向上に努めた。
	・プラネタリウムの投映番組を多様化し、投映回数を増やすことにより、より利用者ニーズに対応できるようにする。	・学習番組については平日は1日3回、一般番組については、平日は1日2回、土曜・日曜・祝日（3、4、5、7、8月）と春・夏休みの平日は1日5回、土曜・日曜・祝日（1、2、6、9、10、11、12月）と冬休みの平日は1日4回。
	・積極的にボランティアを活用し、利用者サービスに努める。	・「サイエンス教室」、「ものづくり工房」、「科学工作教室」、「おもしろサイエンスフェア」、「市民天体観望会」において、ボランティアを積極的に活用して利用者のサービス向上を図ることができた。 ・令和7年度のボランティア登録者数は科学ボランティア29名、天文ボランティア40名であり、ボランティアの資質向上を目的として研修会を実施した。
	・海外からの旅行者など、外国人利用者への対応に努める。	・翻訳機を総合案内に設置し、案内がスムーズに行えるよう環境を整えている。
	・事業効果の検証を行い、サービス向上に努める。	・入館者アンケートを常置するとともに、各事業毎のアンケート調査を実施し、結果の分析・検討を踏まえた改善策が事業運営に反映されるよう努力した。また、車椅子の貸し出しや、授乳室の増設を行うなど、障がいのある方、高齢者及び乳幼児連れの家族等に配慮した接客に努めた。

大項目	事業計画（取り組みや改善の内容等）	管理運営の概要
③ 経営（収支）改善	利用者により身近に親しんでもらえるよう、利用料金の適正化を行う。	・指定管理料：309,114千円（対前年度比102.5% R6年度301,443千円） R1年度（コロナ禍前）：269,655千円　対R1年度比：114.6% ・割安なセット料金のチケットを販売し、利用者へのサービスの維持向上に努めた。 ・利用料金収入：目標額49,000,000円、実績額49,594,730円（対前年度比110.2% R6年度44,986,920円） R1年度（コロナ禍前）：43,979,470円　対R1年度比：112.7% ・利用者数：267,812人（対前年度比109.9% R6年度243,670人） R1年度（コロナ禍前）：310,842人　対R1年度比：86.2%
④ 職員確保方策及び健全な財政基盤	科学館は学校教育との関わりが密接であることから教育職員を配置する。また、展示事業においては学芸員資格を有する人材を配置する。	・インストラクター19名中、教員免許取得者3名、学芸員資格取得者1名
⑤ 施設管理上の個別事項		・開示請求については、財団情報公開規程（県条例に準拠）に基づき、適切な事務処理を行っている。 ・企画運営会議を定期的に実施し、安全管理、展示内容及び事業の分析、検証を行い、改善を図った。 ・普通救命講習を実施した。 ・始業時、終業時点検を実施し、事故回避に努めた。 ・建物、展示物に対する火災保険、施設賠償責任保険、エレベーター保険、各種教室参加者に対する傷害保険、自動車保険に加入した。 ・安全対策・危機管理に関する取組については、消火・避難誘導訓練、AED研修等を行った。

２　点検結果

□ A＋（提案内容を上回った） ○ A　（提案内容をやや上回った） □ B　（概ね提案内容どおり） □ C　（提案内容をやや下回った） □ D　（提案内容を下回った）	【総合コメント】 ・事業計画に示された方針に即して適切に運営されており、以下のとおり利用の促進、サービス・利便性の維持向上に努めている。 ・利用者の興味関心を高める魅力的な特別展・企画展や、小・中学生を対象に、プログラミング教室を実施するなど、内容の充実を図っている。また、ボランティアの育成や積極的な広報活動、近隣施設と連携した取組を行うなど、利用促進・科学教育の普及に努めている。 ・キャッシュレス決済や翻訳機の設置、授乳室の増設など、利用者の利便性も考慮した施設運営にも努めている。 ・利用料金収入は、前年度から増加し、目標額を上回った。 ・今後も、利用者の安全に配慮しながら利用者数増と利用料金収入の確保に向けた取組を実施するとともに、子どもの科学に対する興味・関心を向上させ、科学教育の振興に寄与する取組に期待したい。